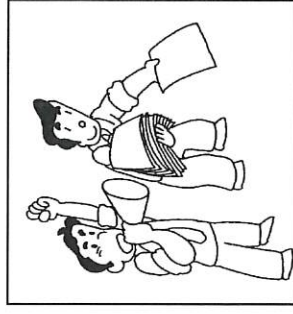


全国 検数労連

700号
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2 日
港福会館5階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール roren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



長期化する22 検数春闘

22 春闘経過説明と意思統一をはかる緊急ZOOM報告集会を開催。



5月16日(日)長期化している22

《22 春闘経過説明をする光部書記長》

検数春闘に対し、職場との共有化を計る緊急集会を開催しました。

集会では光部中央書記長がこれまでの春闘の流れを説明し、理解を深めました。

22 春闘の経過では、全国港運は現在『大筋合意を受け入れる』ところまで来ている。一方で、検数労連は5月17日に第9回目の交渉を行う予定である。

今回の春闘の特徴では産別（全国港運）と個別（検数労連など）が一体となった春闘である。

22 春闘の最大の争点は『大幅賃



5月11日(水)全労連・国民春闘共闘主催の『憲法いかし、いのち・くらし、雇用・生業（なりわい）を守る。11総決起集会』が日比谷

大幅賃上げ勝ち取ろう！

全労連・国民春闘共闘5.11 中央決起集会

野外音楽堂で開催され、検数労連中執4名と日検労中執2名、検数労連横浜支部から油野執行委員、検数労連中国支部から錦政執行委員の8名で参加しました。

集会の主催者挨拶では、国民春闘共闘の小畑代表幹事が、春闘における多くの職場の成果に触れながら4月からの物価上昇によって実質賃上げが崩れてしまつて、大幅賃上げによる底上げと全国一律最賃制の必要性、公務員の賃上げが必要である。

ウクライナ情勢による憲法の条の必要性、いのち・くらしを守り、憲法をいかした生活の実現を目指していきつと呼びかけました。

その後、全労連青年部、市民生協労組、福祉保育労、農民連などが

上げ』である。その大幅賃上げを産別が道筋を作り、その上で個別が大幅賃上げを勝ち取る仕組みとなつており、個別の賃上げが低い場合は産別の春闘闘争は収拾しないという決意のもとでの闘争となっている。

現在、各船社や港運正請各社の年度末決算は軒並み増益となつており、我々がいかにして適正料金を収受していくのが問題となっている。

適正料金の収受については港運労働者不足解消の観点から国交省



決意表明を行い、最後に荻原代表幹事の閉会の挨拶と回覧カンパローで国会請願工場に向かいました。

国会請願工場では、『ロシアのウクライナ侵攻反対』『大幅賃上げの実現』などのカードを掲げて国会前までの道のりを歩いて世間になくアピールしました。

第9回検数労連22 春闘交渉

5月17日(火)第9回検数労連22 春闘交渉で組合は回協会に対し修正回答を求めましたが、回協会ともに賃金引き上げについては変化がなかったものの、諸要求回答において日検協会が回答を一部修正しました。

《日検協会諸要求修正回答》

- 65 歳定年制の実施に向け、企業内労働協約を更に促進していただきたい。
- コロナウチン接種の『特別休暇』について、『特別休暇』については、内部（企業内労働者含む）にて検討していただきたい。

《組合主張》

賃金引き上げに対する修正回答を提示しない回協会に対し、次の通りの主張を行い、次回交渉までに賃金引き上げに対する修正を提示するよう求めました。

日検協会の諸要求に対する修正回答は一定評価するものの、これまでの交渉で繰り返し説明してきた通り、賃金引き上げについての修正回答が無ければ終わらないことを強く強調しておく。

も後押ししており、適正料金の収受によって賃金や労働条件を整備し、港運労働者不足の解消に向け取り組んでいる。

そういった意味では、この22 春闘は『魅力ある港運労働整備に向けた政労使によるスタート元年』と位置付けている。

検数労連は、これまで産別の動きを説明し交渉を積み重ねてきた。したがって、回協会が『収益が厳しい』などといった理由で政労使が行っている動きに背を向けることは絶対に許されない。そのよつなことから、今日まで22 検数労連春闘が長期化しているという事を理解してもらつたうえで、中央・地域・組合員との共通認識としたいとしました。

次回交渉 第10回 22春闘交渉
5月23日か24日で調整。